

専守防衛から「戦略守勢」へ転換を

我が国の安全保障政策の基本に「専守防衛」がある。これは国際用語ではなく、国内で通用する政治的造語である。それだけに同床異夢が生じやすく、安全保障論議を稚拙なものにしてきた。未だに「一切攻撃しないで守りに徹する」と真顔で主張する政治家もいる。

危機管理で求められる牛刀

防衛白書は次のように説明する。「専守防衛とは、相手から武力攻撃を受けたときにはじめて防衛力を使用し、その態様も自衛のための必要最小限にとどめ、また、保持する防衛力も自衛のための必要最小限のものに限るなど、憲法に則った受動的な防衛戦略の姿勢をいう」

似た用語に「戦略守勢」がある。こちらは国際用語だが似て異なるものがある。武力攻撃を受けてはじめて立ち上がるのは同じだが、違つのは「必要最小限」ではなく「合理的」であるところだ。「鶏を割くに焉んぞ牛刀を用いん」という故事がある。小さなことを処理するのに、大きな手段

を取る必要はないという喩えである。だが危機管理においては、「牛刀」が求められる。

危機は予測ができないからこそ危機である。「戦場の霧」のように見通しがつかない危機にあつては、何が「必要最小限」かは分からない。最悪の事態に備えるのは危機管理の要諦である。「必要最小限」と思ったが、結果的に足りなかつたでは済まされない。現役時代、イラクへのC130輸送機派遣を担当したが、棺桶まで準備したのはこのためだ。

正論



東洋学園大学客員教授
元空将
織田 邦男

「必要最小限」のまやかし
「態様」を「必要最小限」に拘れば、「戦力の逐次投入」になるおそれがある。「戦力を小出しにした結果、小さな敗北が積み重なって大敗に至る」のは最悪の戦術である。昭和17年の「ガダルカナルの戦い」が典型である。大本営は米軍に対する情勢判断を誤り、

「必要最小限」のまやかし

「戦力を逐次投入」し大敗した。新型コロナウイルス感染症対策でも、政府の「逐次投入」が批判された。緊急事態宣言、入国管理規制、自粛要請など時期や要領で徹底を欠いた。ただ憲法に緊急事態条項という「牛刀」がなく、強力な法的措置がとれなかつたのも事実だ。パリ不戦条約、国連憲章、現行憲法ともに、国際紛争解決の手段としての戦争、つまり侵略戦争を禁止している。だが侵略を受けたなら、国連が対処するまでは自衛権を行使し、自ら国を守る必要が

思と能力を持っていることを、予め相手に明示し、相手が有害な行動にでることを思いとどまらせることである。

抑止が成立するには、相手が我が防衛力をどう認識するかにかかっている。「必要最小限」であるが十分ではない防衛力で、相手が与しやすくと認識すれば抑止は成立しない。目指すべきは戦争の未然防止である。相手が誤認識しない合理的な抑止力が必要なのだ。憲法制定時、憲法9条は自衛権さえ否定し非武装を想定していた(昭和21年吉田茂首相答弁)。冷戦激化により急速に百八十度変更した。憲法第9条第2項は「戦力」の保持を禁止しているが、このことは、自衛のための必要最小限度の実力を保持することまで禁止する趣旨のものではなく、これを超える実力を保持することを禁止する趣旨のものである(「政府答弁書」)。この解釈変更の代償が「必要最小限」というまやかしだった。

ある。「態様」を「必要最小限」に留めるのが目的化してはならない。あくまで侵略を撃退することだ。状況が不明な中、「必要最小限」という綺麗ごとで国家を守ることほできない。政治的に通用しても軍事的には非現実的である。「保持する防衛力」も国を守る「合理的」な防衛力でなければならぬ。「必要最小限」に拘れば、抑止が成立しない可能性もある。抑止力とは「相手がこちらに害を与えるような行動にでるならば、相手に重大な打撃を与える意思と能力を持っていることを、予め相手に明示し、相手が有害な行動にでることを思いとどまらせること」である。

虚構を生んだ。一切の攻撃兵器は保有できず、専ら防衛兵器のみだと未だに誤解している人も多い。「敵基地攻撃」と言った途端に条件反射的に「専守防衛の逸脱」と思考停止するものもそうだ。グレイゾーン事態やサイバー戦はもはや「専守防衛」では戦えない。台湾有事は日本有事なのだが身動きがとれないのもこのせいだ。

北朝鮮が「重大かつ差し迫った脅威」となり、中国の軍事拡張主義が世界の平和と安定を脅かすようになった今、そろそろ「専守防衛」という自縛自縛から脱し、名実共に合理性を追求する「戦略守勢」に転換すべき時ではないか。この方が国際社会での理解は得やすい。何より国内での防衛論議が現実的なものになるだろう。ぜひ次の国会で議論してもらいたい。

最後に、「専守防衛」は平和主義の幻想を生み自己満足に陥りやすい。だが攻撃を受けてはじめて立ち上がることから、実際には国民に被害が出ることを前提とした残酷な政治姿勢であることを国民は承知しておかねばならない。(おきたくに)